



神奈川県共同募金会
赤い羽根PR大使
(野毛山動物園のきりん)



平成26年(2014年)1月
神奈川県共同募金会 横須賀市支会

「共同募金の実態調査」結果報告

平成25年8月～10月に実施した標記調査について、以下のような結果となりましたので報告をします。

1、調査の依頼・回答方法

①町内会・自治会(364ヶ所)

- ・平成25年8月～10月にかけて行なわれた各地区の連合町内会の会議に出席し調査の依頼を行ないました。
- ・各町内会・自治会で記入後、平成25年11月30日までの返信分を集計しました。

②民生委員児童委員・主任児童委員(559名)

- ・平成25年8月1日の民児協常任理事会にて民生委員・主任児童委員に記載いただくよう依頼を行ないました。
- ・各民生委員・主任児童委員が記載したものを、平成25年10月3日の民児協常任理事会にて集め、集計しました。

2、回答率

町内会・自治会は、364ヶ所のうち、243ヶ所より回答(回答率66.8%)がありました。(1つの町内会から複数の回答があり実数は243件ですが、回答数は256件ありました)
民生委員児童委員・主任児童委員は、559名のうち、501名より回答(回答率89.6%)がありました。これら、757件(町内会256件・民生委員501件)をまとめました。

3、調査目的

- ①戸別募金(世帯からの募金)が毎年、前年に比べ2～3%の割合で減っている要因を明らかにすること
- ②共同募金の約9割が戸別募金を占める中で、今後も引き続き、戸別募金の重要性を確認し、募金額を増やすための方法へつなげていくこと
- ③募金の活用のされ方について、どのような考えをもっているのか確認し、その考え方にそった活用へつなげていくこと

4、表記の統一

- ・町内会・自治会を「町内会」と統一して表記しました。
- ・民生委員児童委員・主任児童委員を「民生委員」と統一して表記しました。



1、共同募金について（ 町内会集計分 民生委員・主任児童委員集計分）

設問1 共同募金の名称を

知っている	254件 499件	753件
知らない	1件 2件	3件
合計		756件

名称は、ほぼすべての町内会・民生委員が知っていることがわかりました。

設問2 共同募金は、用途に応じて赤い羽根募金と年末たすけあい募金の2種類があることを

知っている	226件 493件	719件
知らない	29件 6件	35件
合計		754件

1割の町内会で、赤い羽根募金と年末たすけあい募金の区別が混同している状況が確認できました。

設問3 募金方法は、①世帯へ募る戸別募金、②町や駅で募る街頭募金、③職場で募る職域募金など様々な募金方法があることを

知っている	252件 498件	750件
知らない	4件 1件	5件
合計		755件

募金方法は、ほぼすべての町内会・民生委員が知っていることがわかりました。

設問4 共同募金は、福祉関係者からの要望をもとに募金の目標額が決まることを

知っている	112件 335件	447件
知らない	144件 151件	295件
合計		742件

募金に目標額が定められていることを**6割の町内会の方々が知らない**ことがわかりました。

2、理解・活動について（ 町内会集計分 民生委員・主任児童委員集計分）

設問5 募金が「どのように使われているか分からない」という声をきいたことが

ある	214件 434件	648件
ない	41件 67件	108件
合計		756件

町内会・民生委員ともに9割以上の方々から、用途が分からない旨の声を聞いていることがわかりました。

設問6 募金の使われ方が書かれたパンフレットや広報を、見たことが

ある	217件 484件	701件
ない	38件 16件	54件
合計		755件

1割の町内会が共同募金のパンフレットや広報を見ていないことが確認できました。

設問7 募金の使われ方が載っているホームページを、見たことが

ある	32件 72件	104件
ない	224件 428件	652件
合計		756件

ホームページは、町内会・民生委員ともに9割の方々が見ていないことがわかりました。

設問8 募金は高齢者施設・障がい者施設・保育園の修繕などに使われていることを

知っている	185件	444件	629件
知らない	71件	57件	128件
合計			757件

町内会の3割が施設の修繕費用として使われていることを知らないことが確認できました。

設問9 募金は地域の福祉活動を進めるために市社会福祉協議会や地区社会福祉協議会において、地域の方々と協議しながら使われていることを

知っている	147件	412件	559件
知らない	108件	83件	191件
合計			750件

町内会の4割が、共同募金が市社協・地区社協で使われていることを知らない実情が確認できました。

設問10 社会福祉協議会では、学童の見まわりパトロール、高齢者やひとり親の孤立を防ぐ交流活動、障がい者への理解啓発、防災活動、ボランティア相談など、地域の課題を解決するための活動をしていることを

知っている	191件	460件	651件
知らない	65件	41件	106件
合計			757件

3割の町内会に社協の活動が知られていない実情が確認できました。

設問11 地域の活動を進めるため「活動資金の捻出に苦慮している」と感じたことが

ある	136件	334件	470件
ない	114件	150件	264件
合計			734件

5割の町内会・7割の民生委員が、地域活動のための資金の捻出に苦慮している実情を確認しました。

3、戸別募金の方法（ 町内会集計分 民生委員・主任児童委員集計分）

設問12 町内会・自治会へ未加入の世帯・アパート・マンションへの募金協力を

行っている	71件	166件	237件
働きかけを行っているが十分な協力が得られない	64件	172件	236件
行っていない	120件	158件	278件
合計			751件

7割の町内会が、未加入世帯への戸別募金の協力が思うようにいかない実情が確認できました。

設問13 世帯への募金(戸別募金)はどのように募っていますか？

1件1件世帯を訪問して募る	149件	346件	495件
回覧等で募金の意思を確認し、希望する世帯のみ訪問する	46件	62件	108件
町内会費や自治会費から一括で募金する	50件	79件	129件
回覧で封筒や缶箱などが回ってきて任意で金額を入れ次にまわす	8件	14件	22件
町内会館や管理事務所に募金箱が置いてあり任意で募金する	2件	3件	5件
合計			759件



8割の地域が各世帯を訪問して募金を募っていることが確認できたと同時に、2割の町内会が町内会費から一括で募金をしてことも分かりました。
意見として、各世帯を「訪問することに負担感を感じている」ことがあげられ、町内会費から一括での募金では「同意の仕方の問題」があげられていました。

設問14 戸別募金は誰が募っていますか？

町内会・自治会の役員・班長など	154件	264件	418件
民生委員児童委員・主任児童委員	25件	108件	133件
社会福祉推進委員	52件	176件	228件
合計			779件

町内会役員・班長、社会福祉推進委員が世帯への訪問が多いことが分かりました。
意見では、**普段かかわりのない人と話ができること。転居してきた方とも接することが出来ること等、住民とのかかわりのきっかけ**となっている一方で、居留守をされたり、嫌なことを言われるなど不快な思いをすることもあげられていました。

設問15 戸別募金1世帯あたりの金額の目安(500円や1,000円など)を示すことについて

目安が分かり良いと思う	130件	307件	437件
募金額を示さないほうが良いと思う	71件	128件	199件
合計			636件

募金額を示すことで**強制感にならない範囲で、ある程度の目安を示す**ことが必要であることが確認できました。

設問16 町内会費や自治会費に募金を含めることは、総会で承認されれば、

行ったほうが良い・訪問する手間を考える仕方がない	83件	263件	346件
行うべきではない(一人ひとりの意思ではないため)	152件	196件	348件
合計			694件

半数の町内会・民生委員が行なったほうが良いと考えているため、**町内会費から一括して募金を行なう方法について検討**する必要性が確認できました。

設問17 福祉関係団体からの要望をもとに、募金の目標額が決められているので戸別募金を行うにあたり、

ある程度、強制力があっても仕方がない	31件	82件	113件
趣旨に賛同した人が行ったほうが良い	209件	382件	591件
合計			704件

目標額＝強制力とならないよう自主的に募金を促す必要性が確認できました。

設問18 戸別募金を通じて、①良かった点や、②改善点がありますか(自由記述) 自由記述欄にまとめて記載



4、新たな可能性（ 町内会集計分 民生委員・主任児童委員集計分）

設問19 地域の課題が多様化し(防災・防犯・子育て・孤立・貧困・人権・平和など)、解決する方法や主体も多様化しています。これからの募金の活用方法として

企業やNPOなどさまざまな団体が活用したほうが良い	81件 157件	238件
福祉関係団体(現状の団体)へ行ったほうが良い	147件 280件	427件
合計		665件

現在、配分している団体のみならず、**さまざまな団体が共同募金を活用することの意見が4割ある**ことから、現行の配分をもとに、新たな配分について考える必要性が確認できました。一方で、**配分が分かれすぎると、どのように使われているのか分かりにくい**という意見もありました。

設問20 共同募金では、①プロスポーツ(野球・サッカー)チームと協働した募金活動、②アニメキャラクター(初音ミク)を通じた募金活動など、今までにない取り組みを行っています。今後、こうした新しい取り組みを

今までにない取り組みを積極的に行ったほうが良い	112件 193件	305件
戸別募金など地域の協力で募金を募ったほうが良い	42件 52件	94件
双方ともに積極的に行ったほうが良い	88件 219件	307件
合計		706件

9割の町内会・民生委員が、今までにない新しい募金の取り組みを行なったほうが良いことが確認できたと同時に、6割の町内会・民生委員が、地域の協力で成り立つ戸別募金についても検討していく必要性が確認できました。

設問21 今後、どの募金活動に力を入れれば良いと思いますか？(複数回答も可)

町内会・自治会に未加入のマンションなどに戸別募金を募る	84件 218件	302件
横須賀に約14,500ある事業所やその社員などへ募金を募る	133件 228件	361件
駅や街頭での募金を募る	85件 124件	209件
小学校・中学校・高校・大学など学校を募る	31件 59件	90件
横須賀のイベントにて積極的に募る	167件 360件	527件
合計		1489件

新しい取り組みの具体的な内容として「イベントにて積極的に募る」に多くの意見があげられました。戸別募金に頼るだけではなく、さまざまな募金の試みをしていくことが確認できました。

5、自由記述(募金の集め方に関する意見(221件のうち22件を掲載))

(1)戸別募金を行なうことで顔見知りになれる

- ・1件ごと訪問するので、直接お会いし、少しでも会話することで、自分を知っていただけるということと、高齢者のお宅だと、元気そうか見守ることができます。
- ・一人住まいの所に行く事によって、その人のなやみ等の話と元気な姿に会う事が出来る。
- ・戸別に訪問すると募金をして下さる方の募金に対する考え方、思い等を感じることが出来て良いと思う。



- ・募金協力の際、快く協力して頂き、またご苦勞様と声をかけてくれるので良かったです。顔見知りなので安心して募金して下さる点は良い点です。

(2)町内会費で一括募金をする

- ・戸別募金は町内または自治会費より一括で募金する方向に変更しないと年々減少する幅は大きくなると思います。
- ・戸別募金を行ってきましたが十分な募金協力が得られず。自治会から一括募金協力をお願いすることにしました。
- ・町内会が一括で募金するのは手数料がはぶけるが、共同募金のあり方など考えずに済ませてしまうのではないかな。

(3)アパート・マンションへ募金活動をどのようにすれば良いか

- ・1 時間、子供達(子供会の父母も一緒に)と呼び掛けをしてマンションの入り口 3 ヶ所で募金活動をしている。
- ・共働きの方、マンション・アパートの方の訪問の回数が多く、たいへん。曜日・午前・午後に行っても留守。
- ・単身のアパート住民が多くなり、アパートでの募金が困難。アパート・マンションに住む方の賛同が少ない。
- ・新たに加入した方が町内会にも加入せず、募金にも無関心と見受けられます。若い方の共同募金の必要性を分かってもらう為の活動が必要と思われる。

(4)募金額を増やす目的なら、年1回から年2回での募金活動の実施

- ・募金額を多くする目的なら以前のような10月、12月と2回行った方がよいのではないかな。
- ・どの社会福祉推進委員に聞いても年2度の募金は大変だと言います。
- ・1回500円という考えが多いので、2回分で1000円ですとは強制できません。募金が2種類ということを知っている人も少ないと思います。

(5)戸別募金の集め方

- ・任意ではあるが、訪問・集金する人の募金に対する熱意により、増減がある。
- ・「昨年度は〇〇円ご協力いただきました。今年もよろしくご協力下さい」というような戸別募金額一世帯あたりの金額の目安を示すことによって、減少を止める可能性があるのでは…と思います。
- ・目的もわからずに募金を迫られる感がある。募金の使われ方、募金の役立ち方、募金を必要とする人々が具体的にわかりません。そこが分かれば募金しようという気持ちになるのではと思います。
- ・募金を集める人たちにもう少し手厚い感謝の気持ちを伝えてほしいです。

(6)募金ができない・しない世帯が増えている

- ・高齢者世帯が増え、募金をお願いするのが困難になった。
- ・生活困窮者とまでも言わなくても、余裕がなくなっていることは確かです。
- ・募金に行っている社会福祉推進委員さんは苦勞しているが、それでも行くから募金して下さるのだと思う。

6、自由記述(募金の配分に関する意見(112件のうち20件を掲載))

(1)地区社協活動のPR

- ・社会福祉協議会そのものを知らない人も多く(活動の内容も含めて)、一般の方に知ってもらうことも大切だと思う。
- ・「戸別募金」の実施体である地区社会福祉協議会や町内会関係者への啓発を一層すすめる。
- ・地区社協の行事などのお知らせをするときには、必ず共同募金の事を付け加えて説明し、みなさんに少しでも理解をしていただけるように努力していきたいと思っています。



(2) 活用例など配分を目に見える形にする(配分団体の発表の場など)

- ・地域での具体的な活用例を町内会や学校(幼、小、中、高)などでどんどん発信することが周知活動。
- ・使い方もきちんと礼をつくし発表義務ありと思います。
- ・募金の使途について町内会、自治会等へ出前(ビデオ等々)説明会はいかがでしょう？
- ・小学生のころからお互いに助け合うことの大切さを教えてほしいと思います。

(3) 使われ方のPR

- ・趣旨が分かると「ぜひ協力させてください」と言ってくださった方がいました。
- ・募金額が減らないようにするよりも、お金がどう使われているのかをもっと分かりやすく説明した方が、集める人の気持ちの持ちようが違ってくると思います。
- ・地域住民の活動がかなり活発なのは良いことですが、その事が、共同募金による活動資金で支えられている事を十分認知されていない。
- ・日赤と混同している人が多く、使途不明と感じている。

(4) ちらし・パンフレットの工夫

- ・共同募金PR版はよかった。事前回覧で理解深まった。
- ・毎回同じような内容のちらしにしないでください。
- ・的確に、時期をとらえて随時報告をしていただけると良いと思います。広報紙等の場を活用し、具体的な数値で示していただけると更に良いと思います。目に見える様PRしたら良いと思います。

(5) 募金の配分先・配分方法の工夫

- ・あらゆる生活困窮者を対象として支援する。特に、当該自治体等からの支援が希薄な方々を重点に支援する。
- ・現状の福祉団体以外(設問にある())内の団体)にも資金が許せば活用してほしい。
- ・使途について、決め方(誰が、何処に、どれだけ、どの様に)を周知させ、募金すべきだという気にさせる。
- ・配分先を公開審査など新しい仕組みを作る時期だと思う。
- ・共同募金も使途が広すぎて、ほんとに有効に使用されているのかが分からない。行政の穴埋に使われている気がしている。
- ・社会福祉推進委員に対しての活動費の支給は廃止しても良いのではないのでしょうか？配分するにも手間もかかりますし、各自のボランティア精神がうすらぐ思いがします。

7、自由記述(今後へ向けてのアイデア等(51件のうち10件を掲載))

募金方法のアイデア

- ・募金活動するときは二人で同行してみると協力してくれる。(断りが少なくなると思います)
- ・1件1件まわることが一番確実だと思います。
- ・冠婚葬祭におけるお返しのひとつとしてPR活動を行う。
- ・各家庭に共同募金箱を配布し、1年間、少額ずつでも投入すれば、自主的に募金をしているという意識が持てるし、一年間身近に置くことでPR効果も上がると思う。
- ・例えば、スーパーのレジ付近・遊技場等に設けている募金箱等を参考にしたらどうか。
- ・祭り、各種イベント等多くの人が集まる時に、のぼり旗、募金箱を設置し協力をお願いする。
- ・お金でなく力を出してもらう方法もありと思う。
- ・一過性のイベントで終わっているなら地道にいったほうがいい。
- ・使いみちの目的別に募金してもらうのも分かりやすい(仕訳が大変ですが…)。
- ・今後は戸別募金に片寄らず、積極的に企業やあらゆる団体に働きかけをし、全体で底上げをする事が大切ではないかと思っています。
- ・賛同されなくても色々やってみる方が良いと思う。



8、考察(今後へ向けた取り組みの案)

(1) 地区社協活動を町内会へ理解・周知をしていく方法

- ・設問9・設問10より、町内会によっては、共同募金が地区社協で使われていることを知らない実情、そして地区社協活動が知られていない実情が確認できました。
- ・**今後**、市社協については連合町内会議に参加するなどの町内会活動への参加、地区社協については、町内会が地区社協活動へ積極的に参加できるようにしていくなどの取り組みが考えられます。

(2) 町内会費からの一括での募金

- ・設問13・自由意見欄より、募金を集める方々が高齢になっていること、普段、留守で家にいない家庭が増えていること等により「世帯訪問の募金活動が辛い」という内容から「町内会費での一括募金ができるのか」といった意見がありました。
- ・**今後**、町内会費・自治会費に共同募金の予算付けをし、総会で承認を得て町内会費での一括募金をする取り組みが考えられます。

(3) 世帯訪問での募金方法

- ・戸別募金が「町内会未加入者の増加」「高齢化による世帯の収入の減少」「マンション等募金を募りにくい世帯の増加」「単身世帯や共働き世帯で留守の世帯の増加」等より、これ以上、募金を見込めないという声がある一方で、町内会・自治会へ未加入の世帯・アパート・マンションへの募金協力の働きかけをしていること、普段かかわりのない人と話が出来ること。転居してきた方とも接することが出来ること等、住民とのかかわりのきっかけとなっていることが確認できました。
- ・**今後**、見守り・孤立の発見を兼ねた戸別募金へとなるような取り組みが考えられます。

(4) 配分の方法

- ・募金は額を増やすことが目的ではなく、使われる目的があって募金が行なわれます。そしてその目的に賛同した人が募金を行なうことで募金活動が成り立っています。本来であれば募金をするだけではなく、どう使われるかを確認することで理解が深まります。
- ・**今後**、地区ごとに配分した団体からの報告会、そして、こういった団体へ配分すべきかプレゼンテーションなどを行い公開での審査を実施するといった取り組みが考えられます。

(5) 新たな募金の取り組みの検討

- ・自由記述欄には、町内会だけに募金を頼らず、募金方法を多方面に広げることの希望があると同時に、一過性で終わらせることになるのであれば、募金方法をあまり多様化しないほうが良いといった意見もありました。
- ・**今後**、既存の募金である戸別募金、法人募金、街頭募金、職域募金、校内募金のうち、法人・職域募金として企業等への働きかけ、校内募金として、学校の授業等で共同募金について理解を促す働きかけに力をいれていくことが考えられます。あわせて、一過性で終わらせることない形で市内のイベントにてブース等を設け、募金を募ることが考えられます。

(6) まとめ

- ・まずは、調査を総括した全体のまとめとして報告をしました。今後は、地区ごとに傾向があるか等を、この調査結果の結果から確認していきたいと思います。